RB-79 MIDDLE-RANGE SUPPORT TYPE

MOBILE POD BALL

"Ver.Ka"

SPECIFICATION / MODEL NUMBER:RB-79/ TYPE : MOBILE POD / HEIGHT:12.8m / WEIGHT:17.2t /
GENERATOR OUT PUT:400kw / ARMAMENTS:180mmCANNON×1(AMMUNITION :21ROUNDS)
Assignment:EARTH FEDERATION SPACE FORCE

MASS PRODUCTIVE SUPPORT MOBILE POD
U.C.0079

U.C.0079.06. RX-78 Proto type "Ball" roll out.
U.C.0079.11.6. Encounter battle of Corregidor.
U.C.0079.12.24 E.F.S.F. begins The cerribalo Campaign.
U.C.0079.12.24 Capture of Solomon.
U.C.0079.12.29 E.F.S.F. begins The Star One Campaign.
U.C.0079.12.31 The Battle of A Baoa Qu.
U.C.0080.01.01 The One-year War ends.

MG MASTER GRADE
Ver.Ka

BANDAI 2004 MADE IN JAPAN

©創通・サンライズ

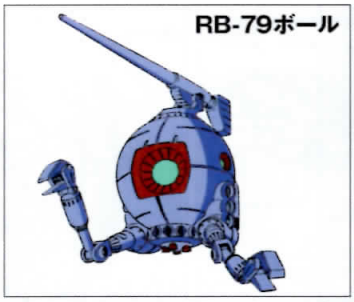
※パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。
※写真の完成品は塗装してあります。

0131412

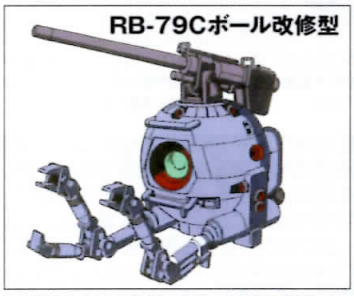
BANDAI

RB-79 ボール "Ver.Ka"

RGM-79ジムの支援用に開発された地球連邦軍の支援ポッド。元々、軍および民間で使用されていた宇宙作業用ポッドをベースに装甲と武器を加えて兵器化した。推進システムには化学燃料ロケットを採用しており、機体全体に配置されたバーニアで姿勢制御を行う。主武装は180mm低反動キャノン砲1門。搭乗者は1名。機体前部に装備された2本のアームで簡単な作業を行うことが可能。写真のボール "Ver.Ka" はRB-79Cのような、より大きな物体をつかむためのサブアームを装備している点が特徴。



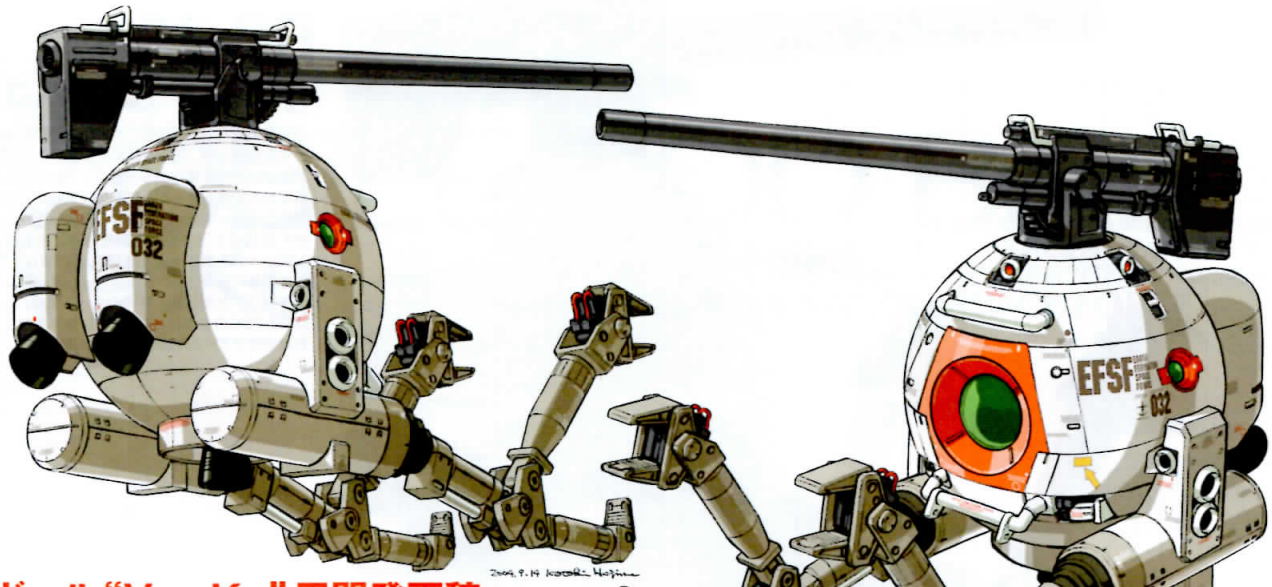
↑『機動戦士ガンダム』に登場したボールの設定画稿。大河原邦男氏がデザインを担当している。



↑OVA『0083』に登場したボールの設定画稿。カトキ版ボールの形状はこの段階でほぼ完成した。

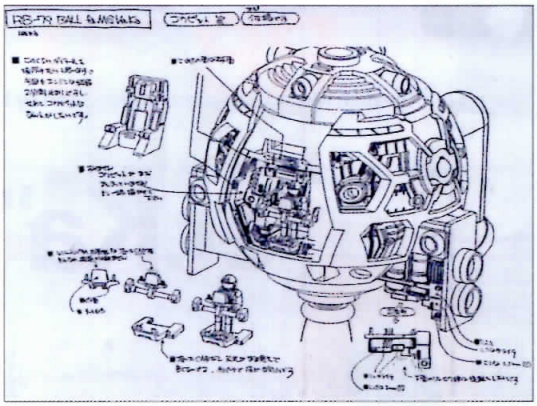
↑OVA『第08MS小隊』に登場したボールK型。2連装砲は監督からのオーダーによるもの。

RB-79
Gundam Models Designed and Produced by Ka
BALL
/er.Ka"

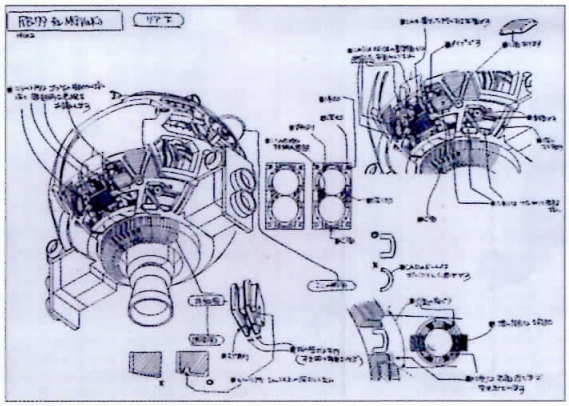


ボール"Ver.Ka"用開発画稿

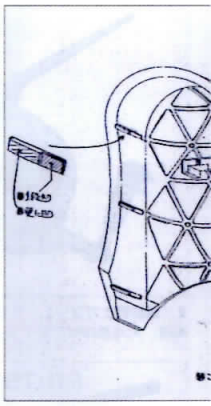
このページに掲載したものは、すべてMGボール"Ver.Ka"を開発するにあたってカトキ氏が新規に描き起こした開発用画稿である。基本形状はOVA『0083』版ボールをベースとしながら、立体となった際に見栄えがするようフォルムの微調整と各部の細かなディテールアップが行われている。ここに大きく掲載したカラーの全身図2点は、キット用に新規デザインされたマーキングデカールを貼った姿を想定したもので、完成形を十分にイメージできる画として描かれている。また、MGボール"Ver.Ka"の特徴のひとつである内部構造の再現に伴い、カトキ氏はそのための詳細な開発画稿を描いている。ここにも数点掲載しているので、キットと比べながら御覧になって頂きたい。



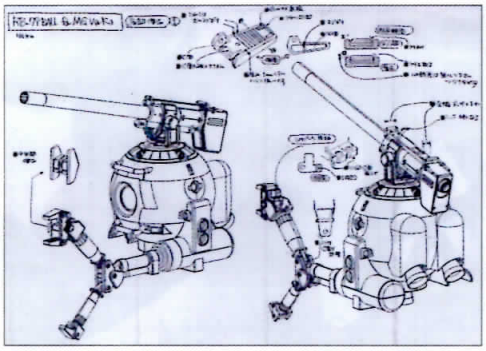
⬆内部フレーム前部を描いた開発画稿。特にコクピット内部のパーツ形状について細かい指定がなされている。また、この段階でコアフレームとトラスフレームによる二重内部構造のイメージが確立されている点にも注目。



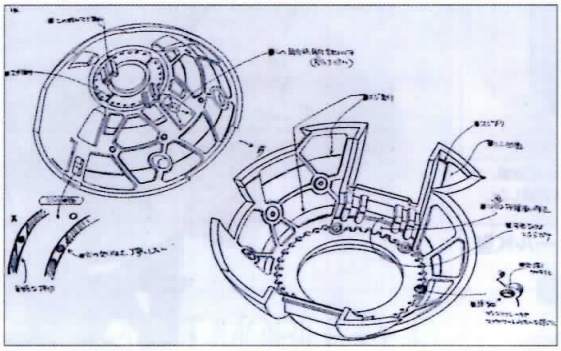
⬆内部フレームを機体底部からあおって見た開発画稿。コクピットの下辺りのモールドについては、「MGゴッグの胸メカのように深く彫刻的な表現をお願いします」というカトキ氏の指示が画稿の中に書き込まれている。



⬆バックパックの外部装甲の内側にモールドを加える指定が描かれている。

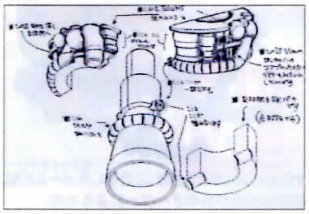


⬆アーム部の細かい形状についての指定が描かれた開発画稿。手にあたる先端部のスジボリや凹凸にまで指示がされている。また、この画稿からは180mmキャノン砲の詳細な形状も確認できる。



⬆機体上部と底部の外部装甲の内側に関する開発画稿。ここにトラス状のモールドを施す指定がなされている。"通常見えない部分にこだわる"ということが、このキットのコンセプトの一つとして課せられていた。

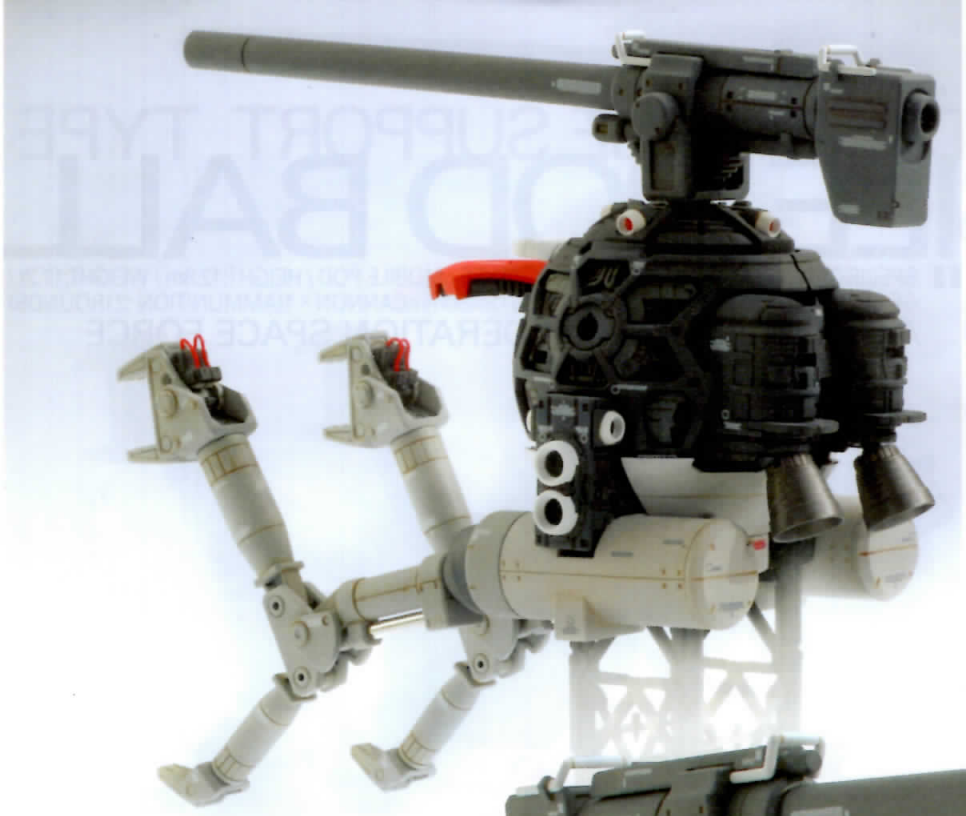
⬆キット付属のメカニッククルーのデザインもカトキ氏が手掛けた。



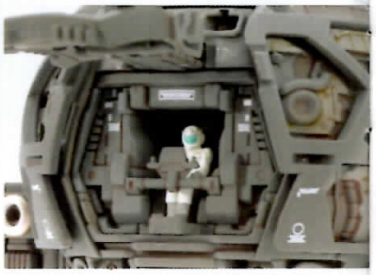
➡機体底部のバーニア周りに関する開発画稿。内部フレームの内側に装着され、若干隠れてしまう部分にまで細かなモールドを施している。

RB-79 BALL "Ver.Ka"

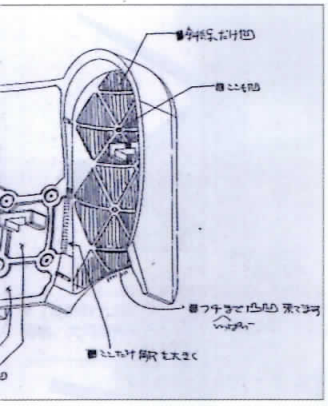
Gundam Models Designed and Produced by Ka



⬆内部フレームはコアフレームの上にトラスフレームを左右から覆い被せる構造になっている。



⬆コクピットハッチは引き出した後、前方に開く。中にはパイロットのフィギュアが搭乗可能。



RB-79 BALL "Ver.Ka"

Gundam Models Designed and Produced by Ka

内部構造のコンセプト

MGボール"Ver.Ka"はカトキ氏によって新規にデザインされた開発画稿を元に、球状の本体すべての内部フレームを再現している。この内部フレームは、芯となるコアフレームの上に格子状のトラスフレームが覆い被さる二重構造になっている。具体的にはトラスフレームの隙間からコアフレームのディテールがのぞく構造となっており、複雑で奥行き感のある形状を生み出している。また、コアフレーム自体もコクピット周辺部は多層構造を意識したモールドが施されていることによって、より密度感のあるモデルに仕上がっている。これらの内部フレームをキット組み立て完成後にも鑑賞できるように、MGボール"Ver.Ka"は本体のすべての外装を着脱可能となっている。そのためキット完成後も右の写真のように内部フレームを露出した状態でディスプレイすることが可能だ。

コクピットの内部もその内壁からシート、操縦桿、ハッチの裏側に至るまで細かなディテールが施されており、内部フレームの外観と相まってよりメカニカルな魅力を演出することに一役買っている。

軌道上の働き者ボール

Interview;Katoki Hajime

デザイナーズMG「Ver.Ka（カトキハジメ バージョン）」第3弾としてボールがリリースされた背景には、カトキハジメ氏の並々ならぬ想いが込められているという。Ver.Ka前2作がヒーロー的魅力に溢れたガンダムだったのに対して、一年戦争で縁の下の力持ち的ポジションにあった量産型メカ、ボールを推した理由をカトキ氏に聞いてみた。

――一年戦争末期、GMと共に地球連邦軍を勝利に導いたボール。この機体を今回"Ver.Ka"ブランド第3弾としてリリースすることになった経緯について、カトキ氏に聞いてみた。

「『機動戦士ガンダム』が従来のロボット物と比べて斬新でおもしろかった点のひとつに、戦闘ロボットの量産という概念が挙げられます。次々と新型モビルスーツ（以下MS）や超兵器であるモビルアーマーを戦場へ投入し、技術力で戦争を戦おうとするジオン軍に対して、地球連邦軍はGMやボールなどの中庸な兵器を大量に生産し、その膨大な物量をもって一年戦争を制した。これはちょうど、第二次世界大戦中におけるドイツ軍と連合軍の対比に似ています。ドイツ軍が誇る最強戦車ティーガーと比べて、連合軍の主力戦車シャーマンは戦闘力で劣ったものの、大量投入することでティーガーを圧倒した。でも勝敗を分けた最大の理由は、ドイツ軍が最後まで馬車を使っていた部隊もいたのに対し、連合軍は戦地へ何十万台という膨大な量のジープやトラックを送り込んだためとも言われています。つまり戦車などに比べると、極めて地味なメカが勝利の鍵となったわけで、一年戦争におけるボールもそういった重要な意味を担っていたはずです。

以上のような事を考えていくと、ボールも一年戦争のマストアイテムのひとつではないかというのが私の考えです。一般には地味で人気が無いと言われているボールですが、こうしてみるととても魅力的に感じられるのではないでしょうか。私はボールはガンプラのラインナップに並んで然るべき機体だと常々思っていましたので、今回"Ver.Ka"としてリリースできたことは、とてもうれしく思っています」

――カトキ氏はこれまでにアニメなどにおいて、何度かボールのデザインをリファインしてきた経緯を持っている。そして今回の"Ver.Ka"用デザインもそれらの延長線上に存在するものだという。そこで次に"Ver.Ka"の原点というべきカトキ版ボールの変遷について話を聞いてみた。

「OVA『機動戦士ガンダム0083STARDUST MEMORY』（以下、『0083』）ではシリーズ後半の脇役としてボールを登場させています。『0083』の時代背景はU.C.0083で一年戦争後を舞台にした作品ですが、「ソーラ・システムII」を出したり「デラーズ・フリート」がコロニー落としを行うなどといった一年戦争の出来事を反復をしていく要素もあった物語だったので、そこにボールの存在は欠かせないというのが監督をはじめ制作現場の総意でした。『0083』は当時"90年代のガンダムを作ろう"という目標を掲げて制作しており、GMやザクなどのMSはファーストガンダムの頃と比べ、密度の高いディテールを取り入れたデザインにしていたので、それらと一緒に登場するボールにも同様のハードディテールを施しました。当時模型雑誌企画（月刊『モデルグラフィックス』誌掲載）用に描いたボールのデザインがベースになったのですが、今回のボール"Ver.Ka"も （P16へ続く）

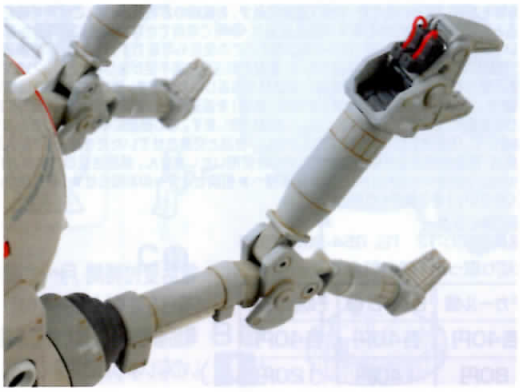
⬆バックパックの外装パーツの裏側。開発画稿の指定通りにトラス状のモールドが施されているのがわかる。

⬆機体外装パーツの裏側。このモールドの形状はトラスフレームを意識したもので、すべての外装に施されている。

カトキハジメ
【KATOKI,Hajime】

メカデザイナー・イラストレーター。'91年にOVA作品『機動戦士ガンダム0083スターダストメモリー』で公式に参加して以来、ほとんどのガンダム作品に参加してきた。プラモデルなど関連商品のコンセプトデザインを手掛けていることでも有名。

⬆ボディ全体に貼られるカトキ氏デザインのマーキングデカール。このマーキングは外装だけでなく、内部フレームにまで貼る指定が施されている。

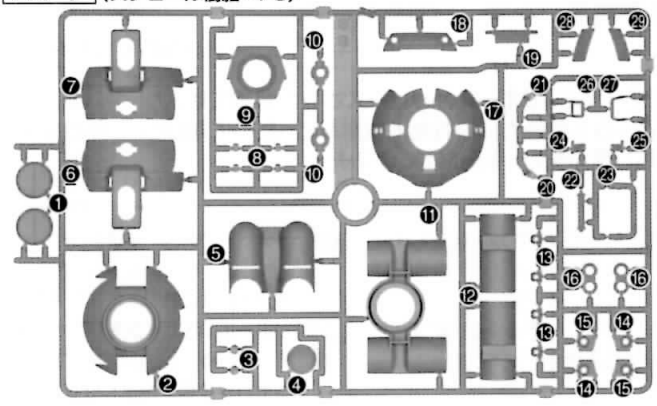


⬆サブアーム展開時の写真。一般のMSのマニピュレータより性能が劣るものの、ノーマルアーム時より大きな物をつかむことが可能なモードだ。

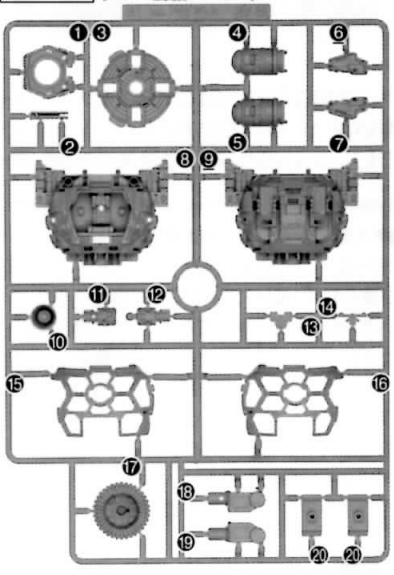
⬆ノーマルスーツ着用のメカニッククルーは、本キットに2体付属。

パーツリスト

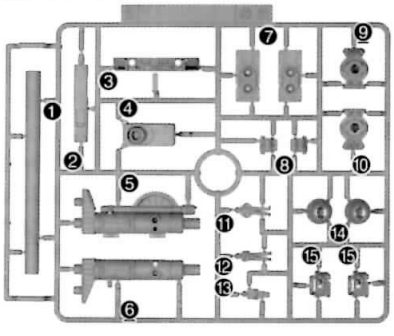
Aパーツ（スチロール樹脂：PS）



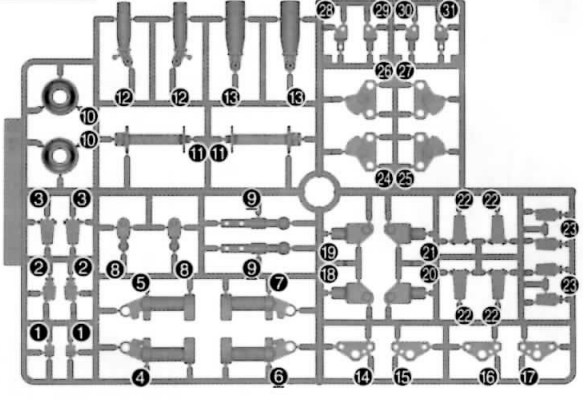
Bパーツ（ABS樹脂：ABS）



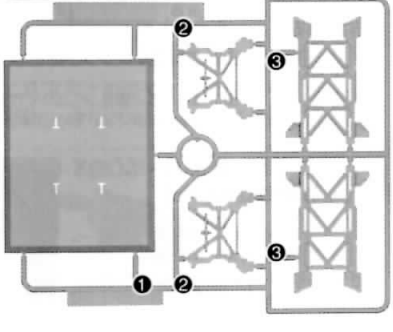
Cパーツ（スチロール樹脂：PS）



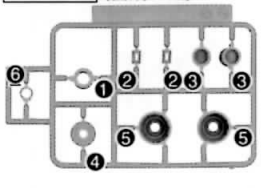
Dパーツ（ABS樹脂：ABS）



Eパーツ（スチロール樹脂：PS）



F1パーツ（合成ゴム）



マーキングシール……1枚
ガンダムデカール……1枚
金属シャフト……2本
リード線……1本
（塩化ビニル樹脂：PVC）

〈お買い上げのお客様へ〉部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（**裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。**）にて下記までお申し込みください。なお、やむをえず部品注文カードをご使用できない場合には発送が遅れる場合がございます。ご了承ください。又、部品注文カードはコピー（拡大含む）での使用も可能です。代金は、料金表通りです。定額小為替は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額未満の時には残額をお返しいたします。また、在庫がない場合には注文をお断りする場合がございます。その際は、お送り頂きました代金（為替）を返送いたします。但し、それ以外に掛かった手数料等は、お客様負担になりますので、ご了承の程、何卒よろしくお願い致します。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。部品注文の方法は、HPでもご紹介しております。詳しくはhttp://bandai-hobby.netより▶お客様へ▶相談センターのお知らせ▶「■部品が必要になったらこちらのページをご覧ください。」をご参照ください。

■申し込み先　(株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12　TEL 054-208-7520

《料金表》●部品代、送料は切り取った1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	デカール類	B❽・B❾	その他の部品
部品代	150円	各40円	各40円	各40円
郵送料	200円	80円	140円	120円

・電話受付時間 月～金曜日（祝日を除く）10時～16時
・電話番号はよく確かめてお間違いのないようにご注意ください。

2004.12/T・TO

FOR USE IN JAPAN ONLY.

部品注文カード　0131412

MG
1/100 RB-79 ボール（Ver.Ka）

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由（○で囲む）（こわした・なくした）

・日中ご連絡可能な電話番号　・年齢
（　　-　　-　　）（　　才）

R1131412　'04.12

※コピー使用可

⚠ 注 意

必ずお読みください

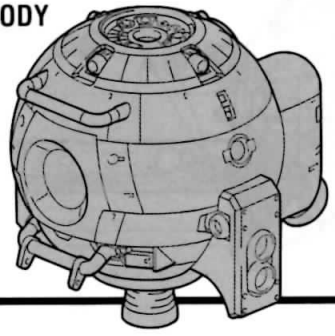
- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

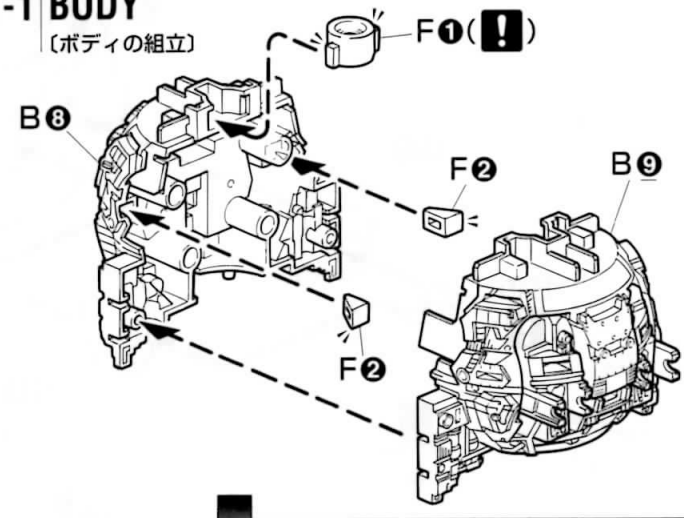
・接着をするところ	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取るところ	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします

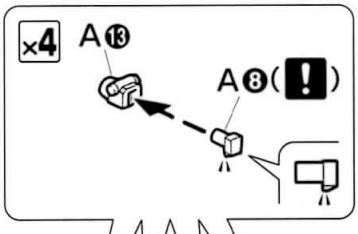
1 BODY

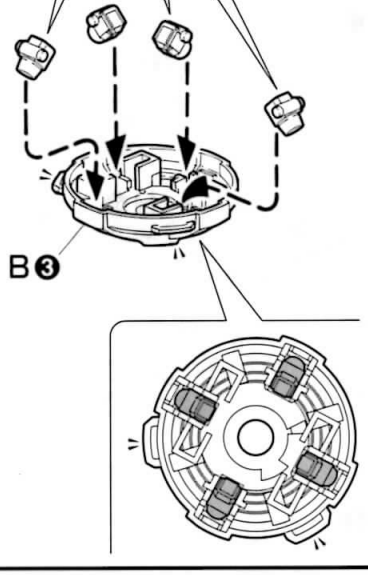


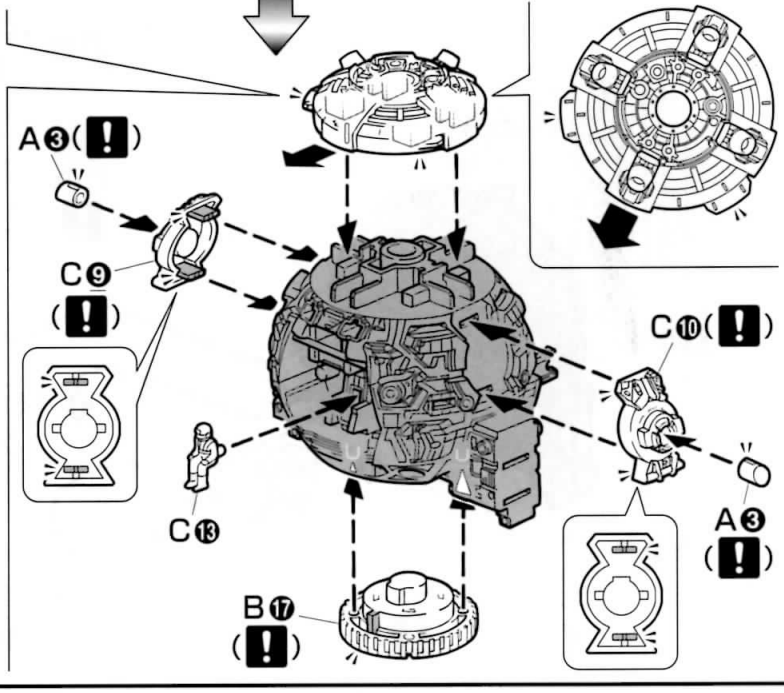
1-1 BODY

〔ボディの組立〕

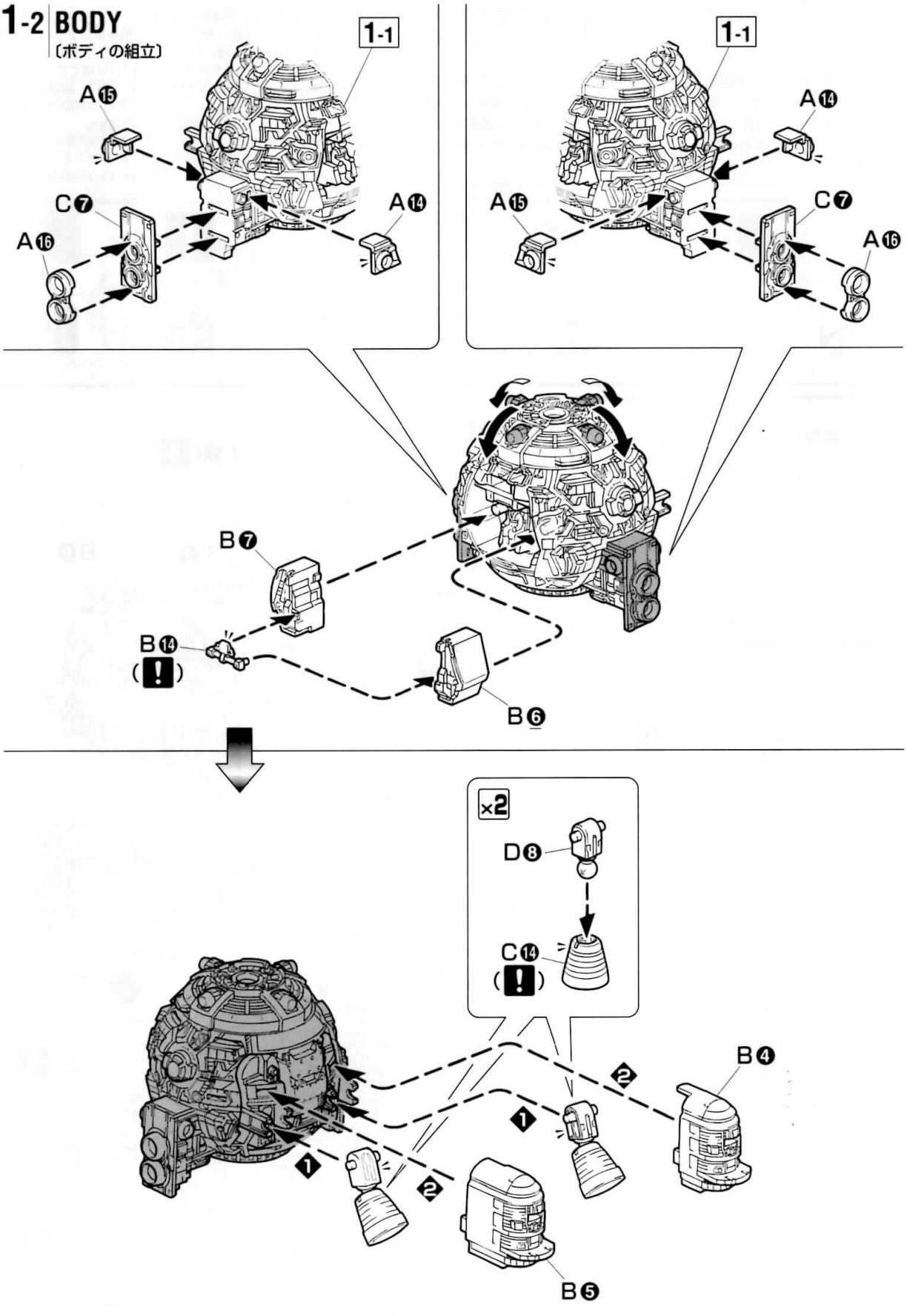




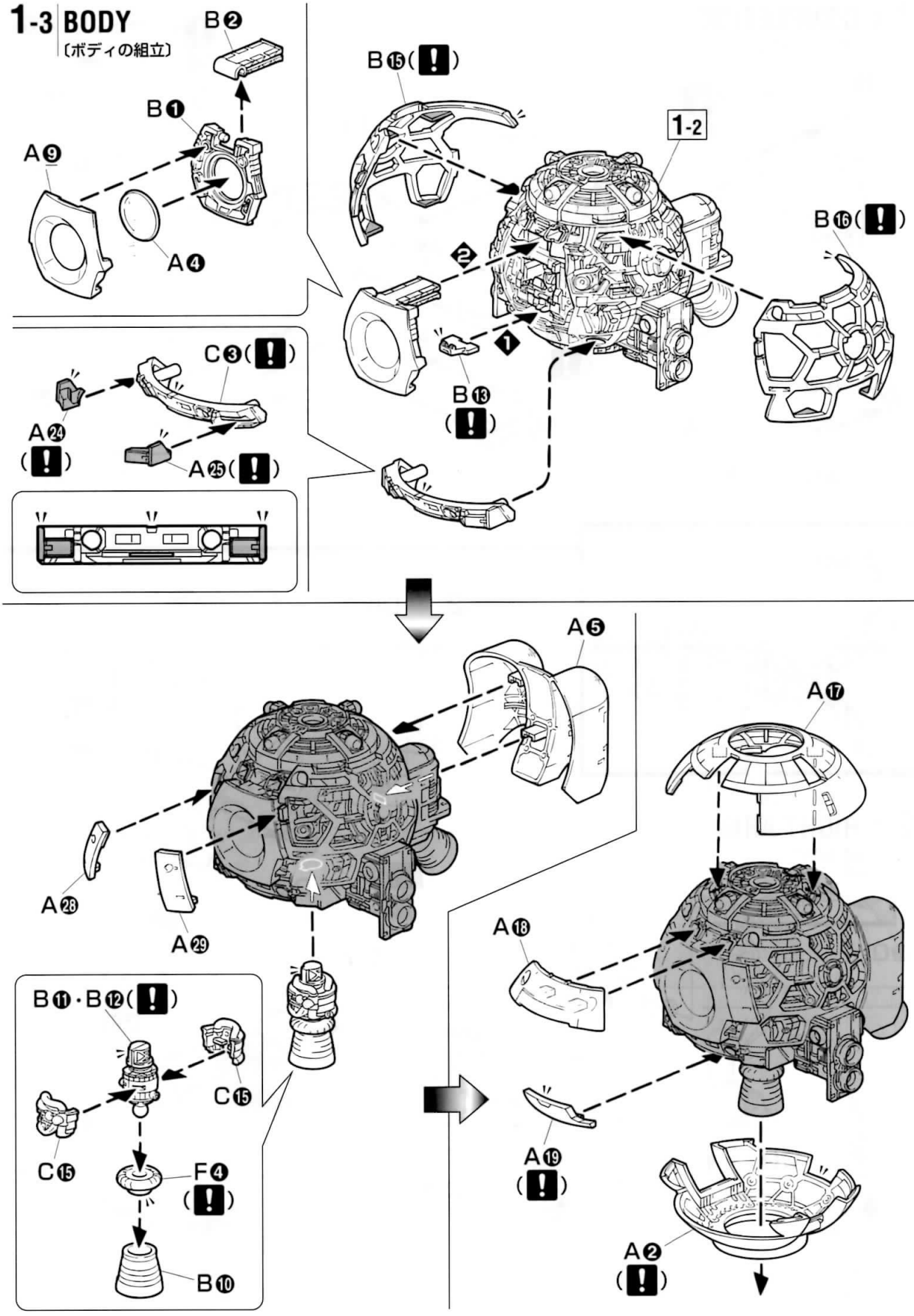




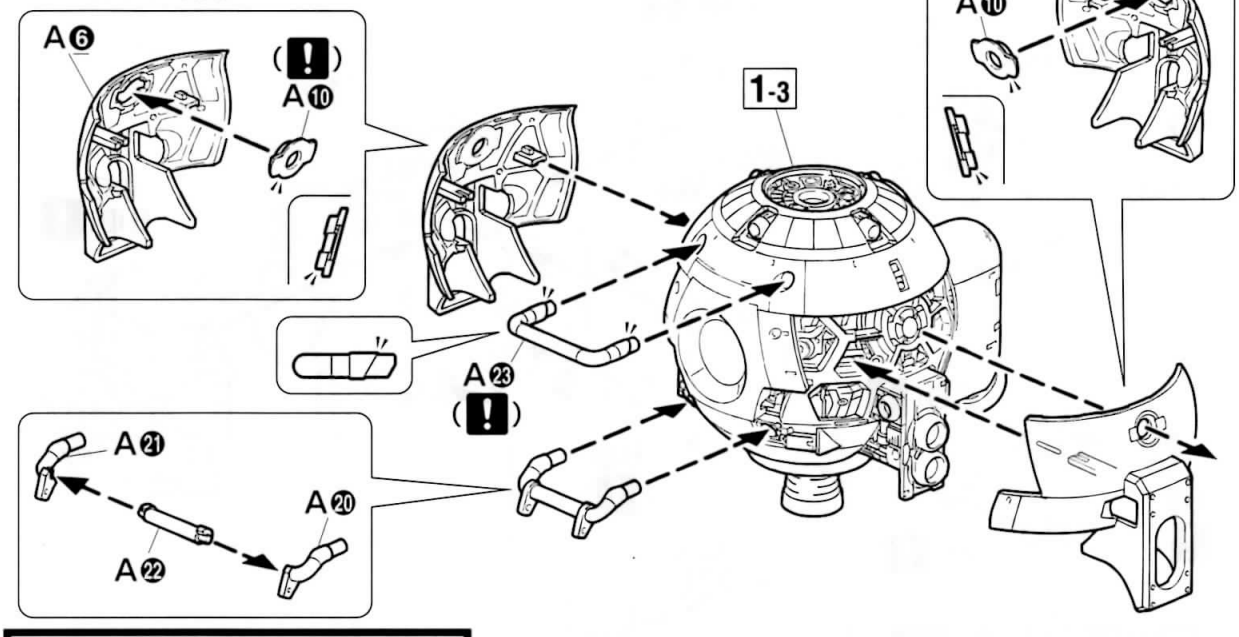
1-2 BODY
〔ボディの組立〕



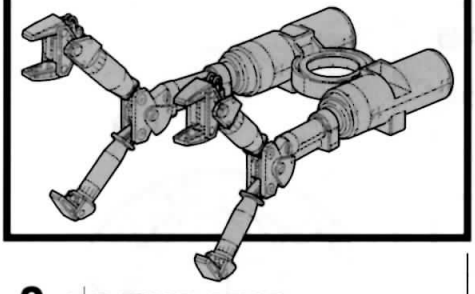
1-3 BODY
〔ボディの組立〕



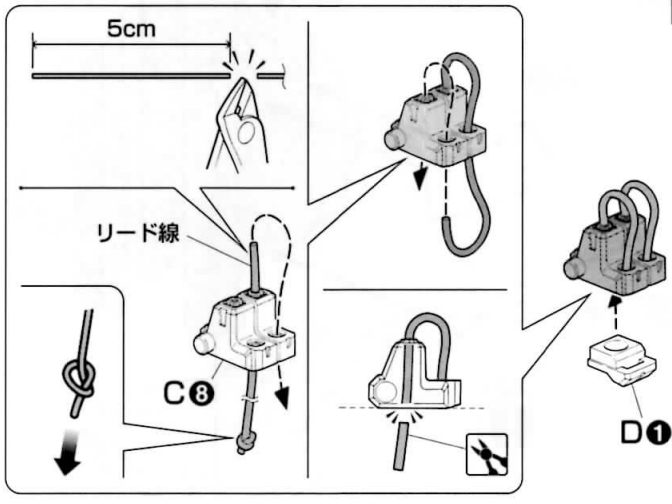
1-4 COMPLETION
〔ボディの完成〕

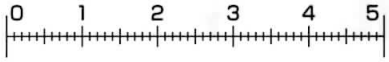


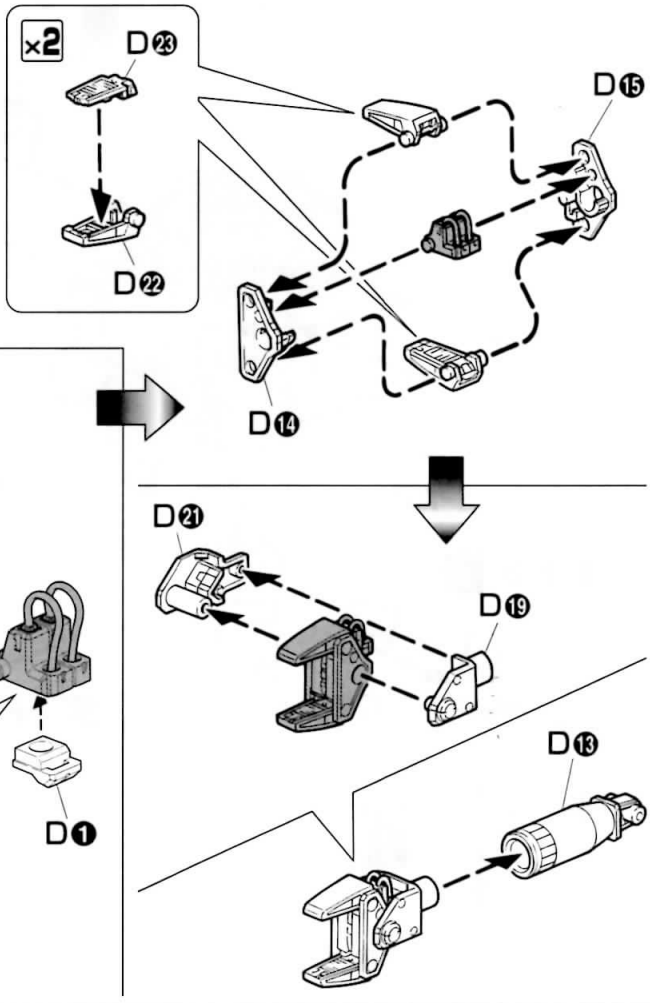
2 ARM



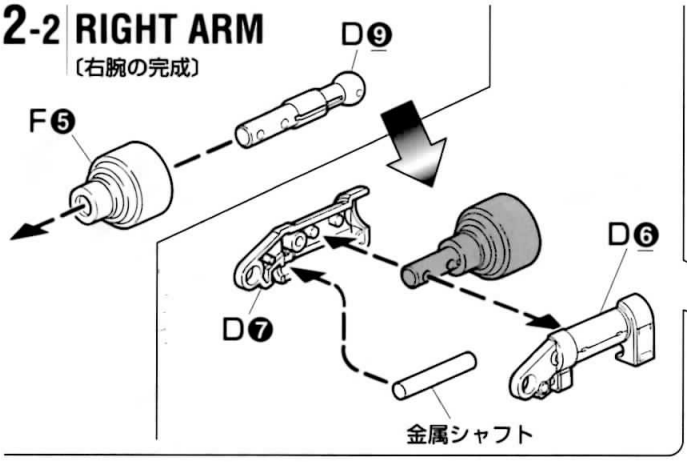
2-1 RIGHT ARM
〔右腕の組立〕

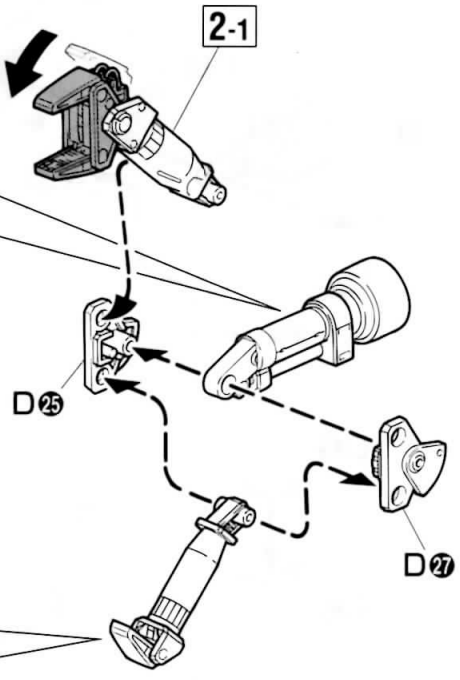


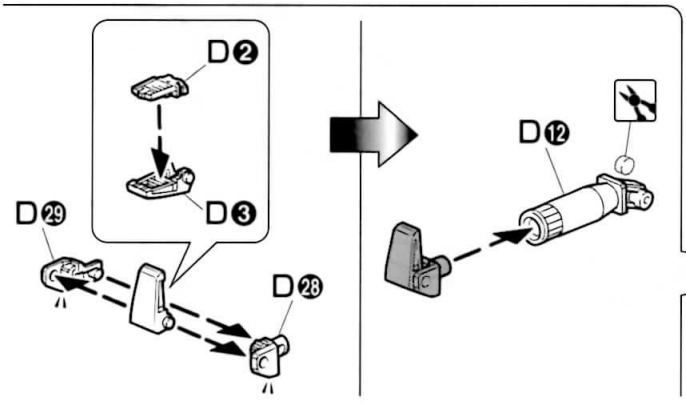




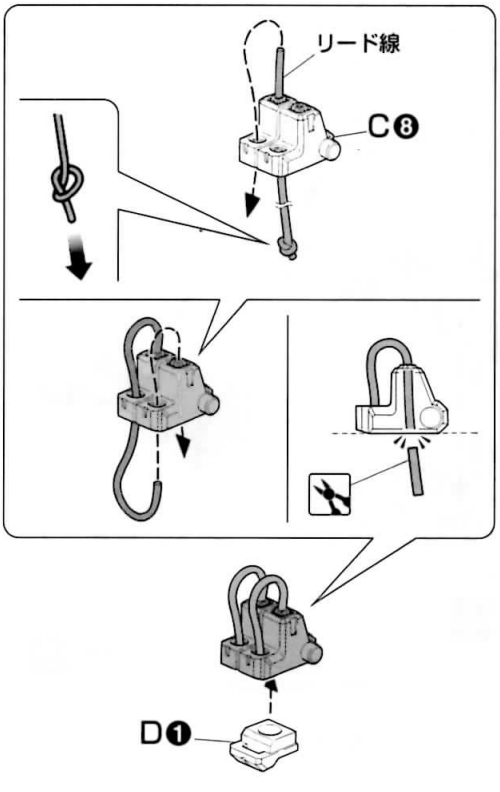
2-2 RIGHT ARM
〔右腕の完成〕

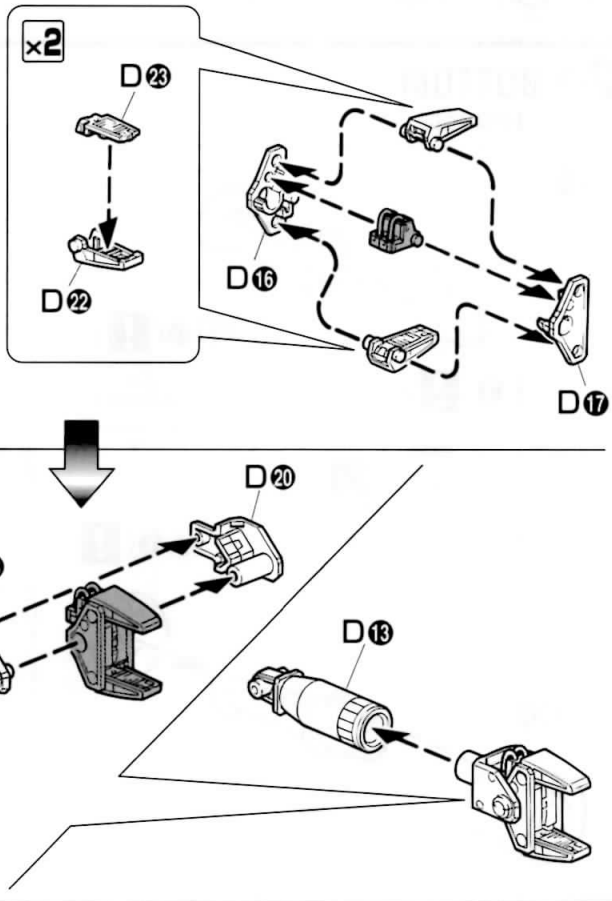




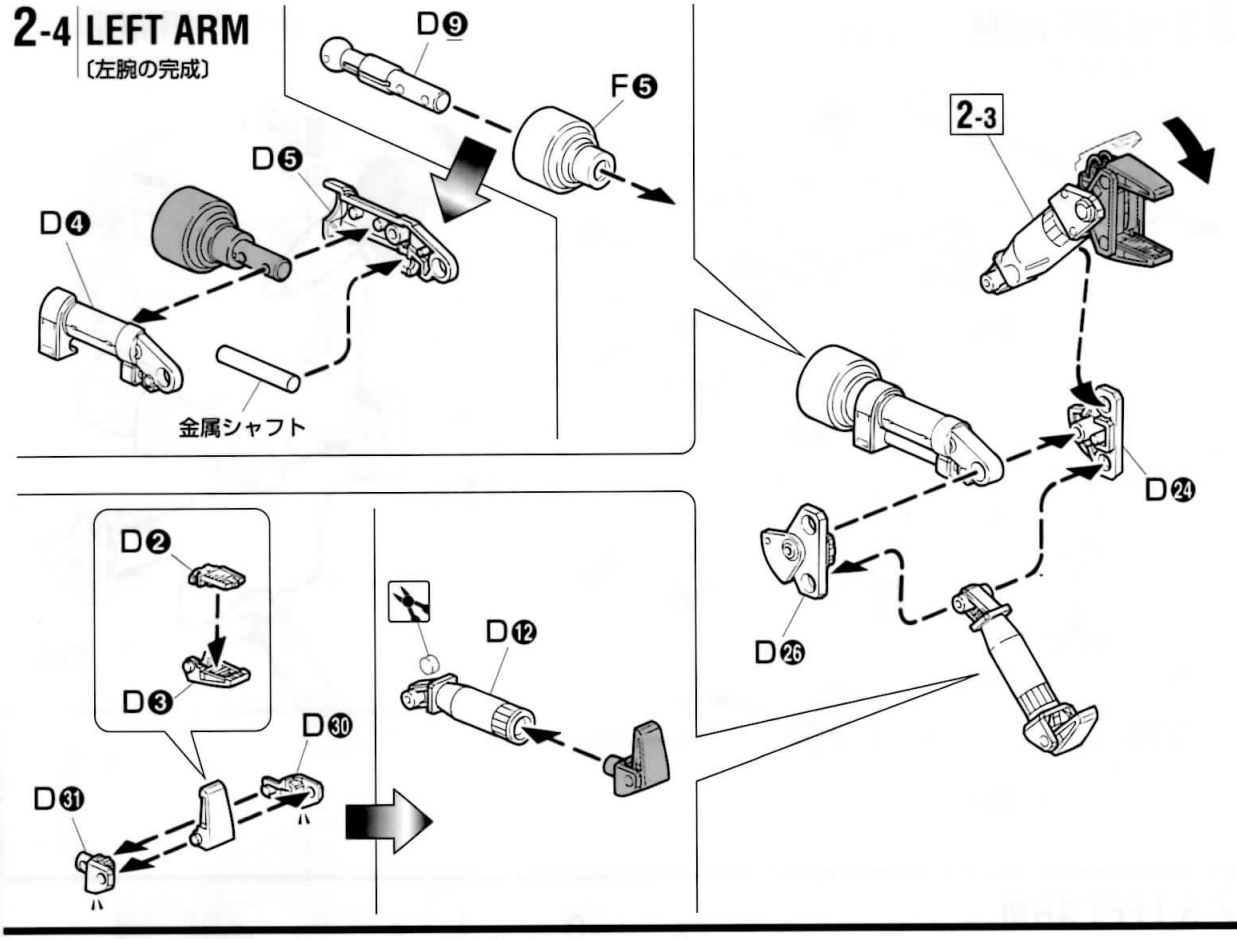


2-3 LEFT ARM
〔左腕の組立〕

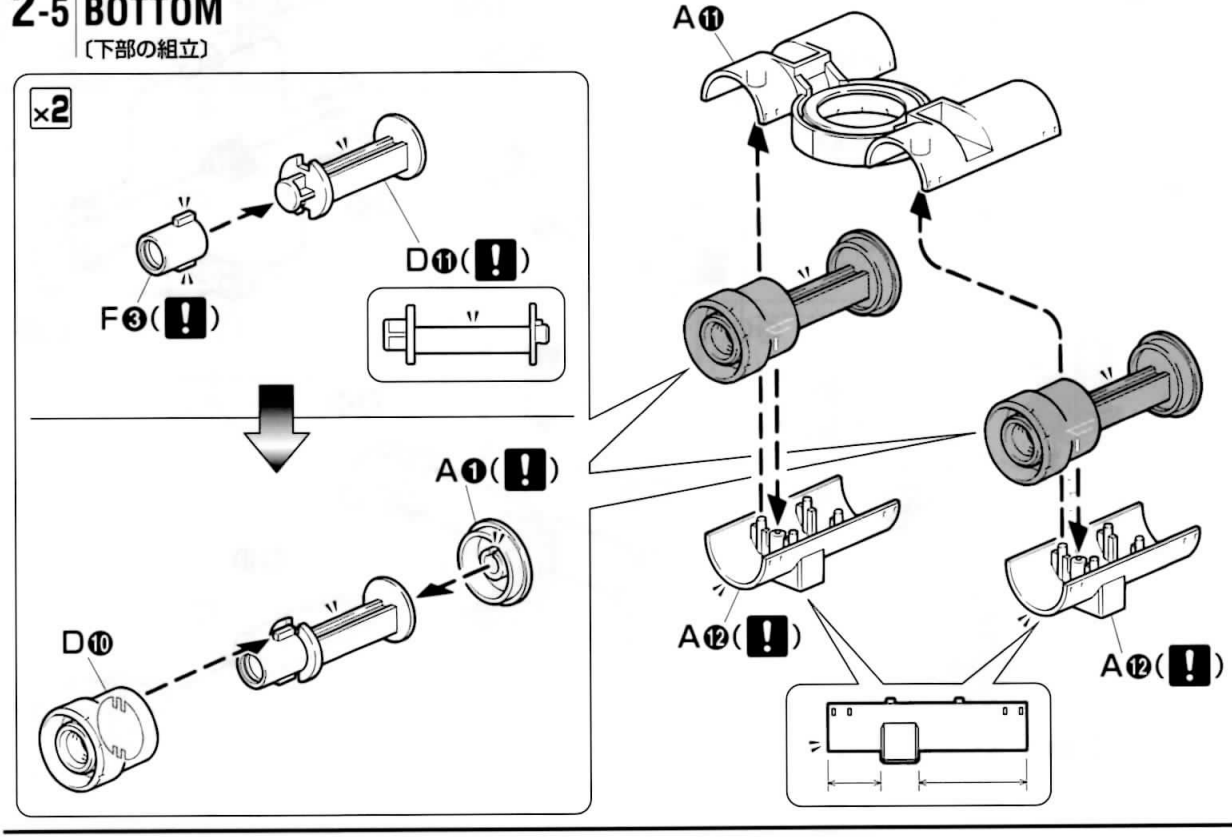




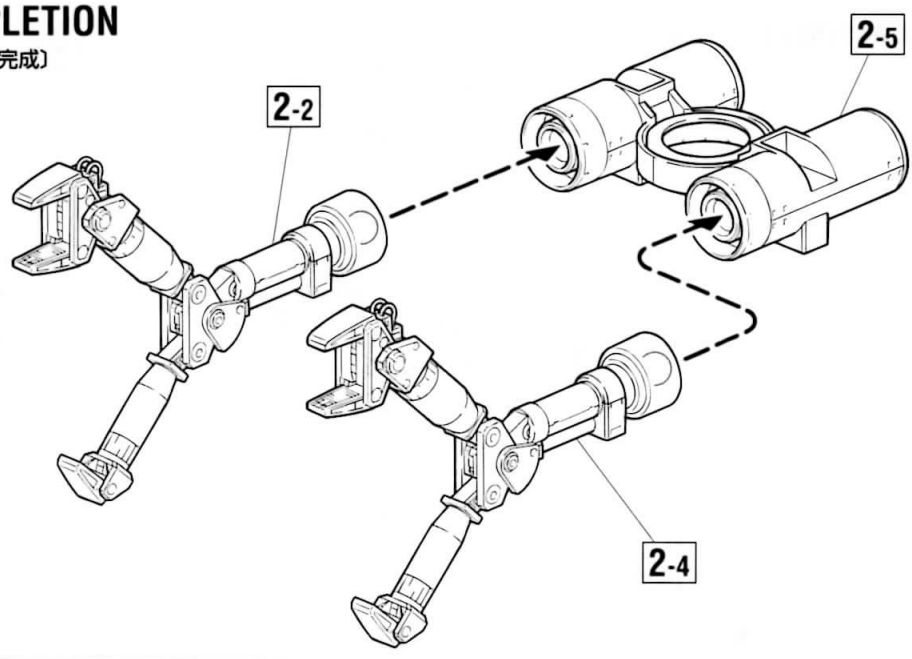
2-4 LEFT ARM
〔左腕の完成〕



2-5 BOTTOM
〔下部の組立〕

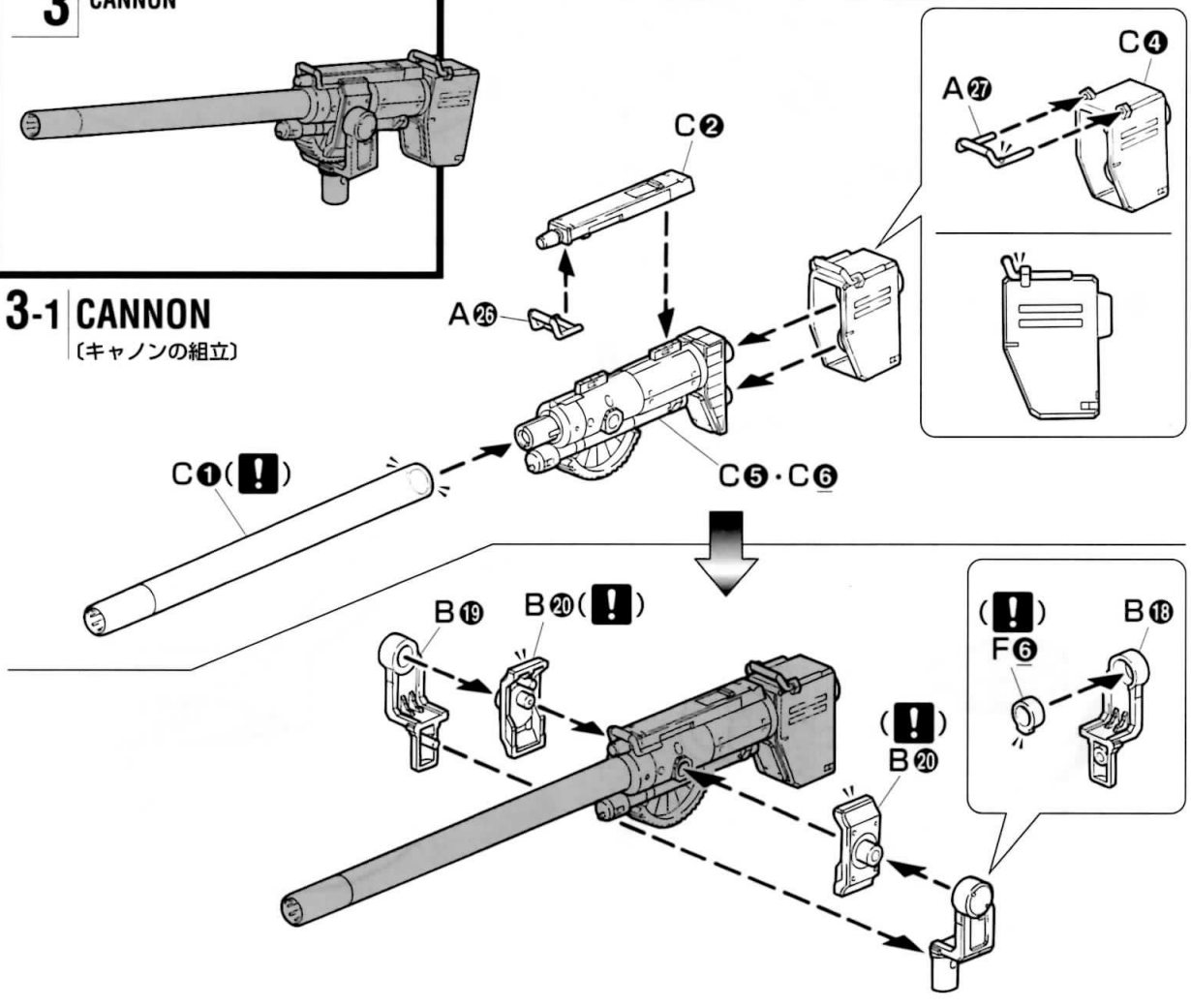


2-6 COMPLETION
〔アームの完成〕

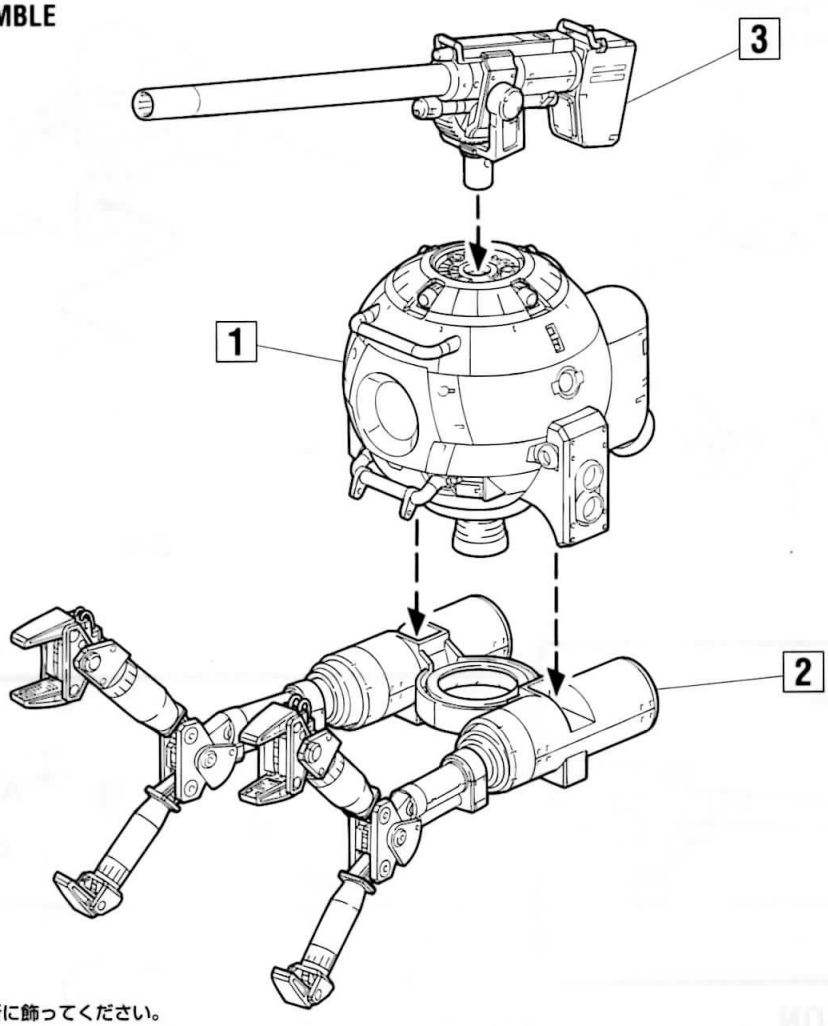


3 CANNON

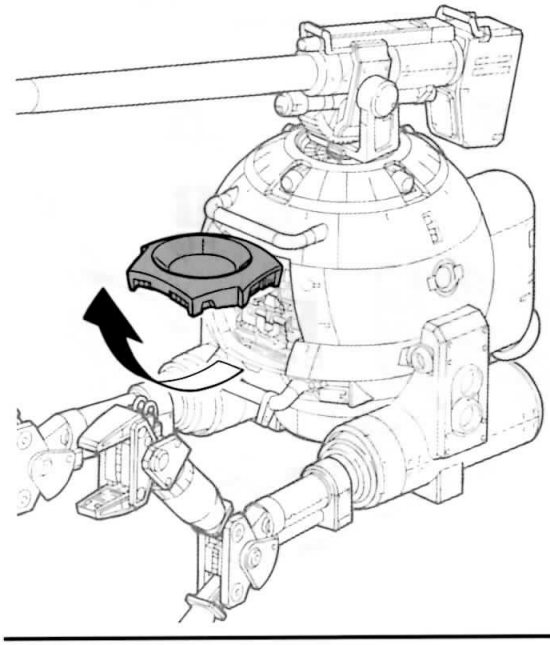
3-1 CANNON
〔キャノンの組立〕

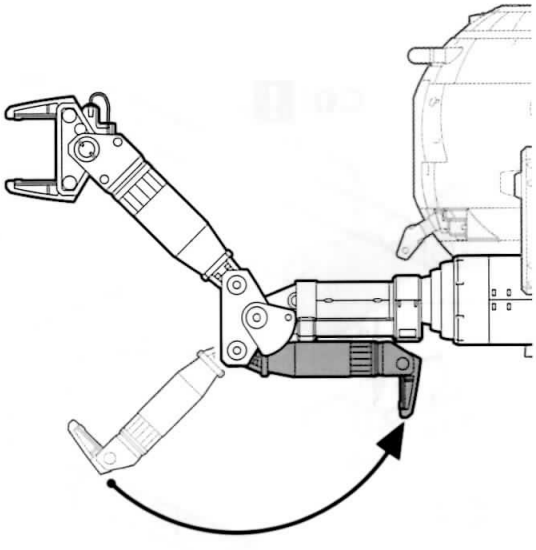


4 FINAL ASSEMBLE

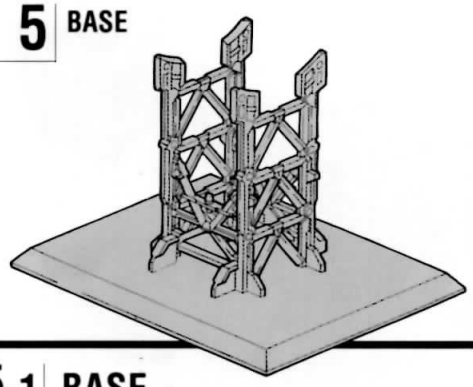


※C⓫・C⓬は好みの場所に飾ってください。

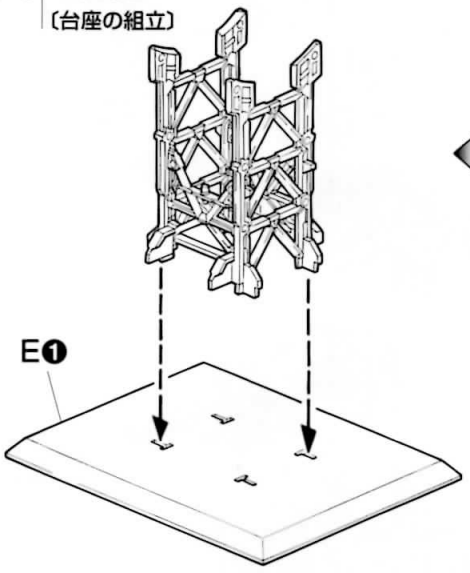


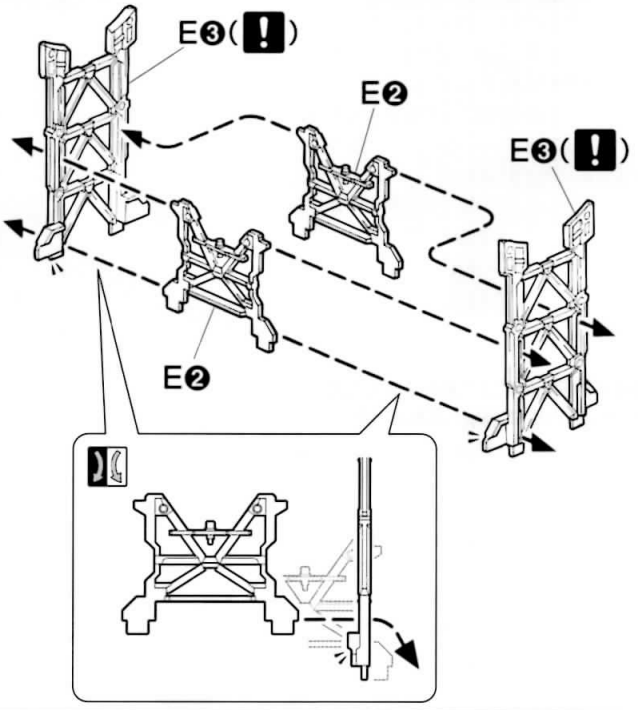


5 BASE

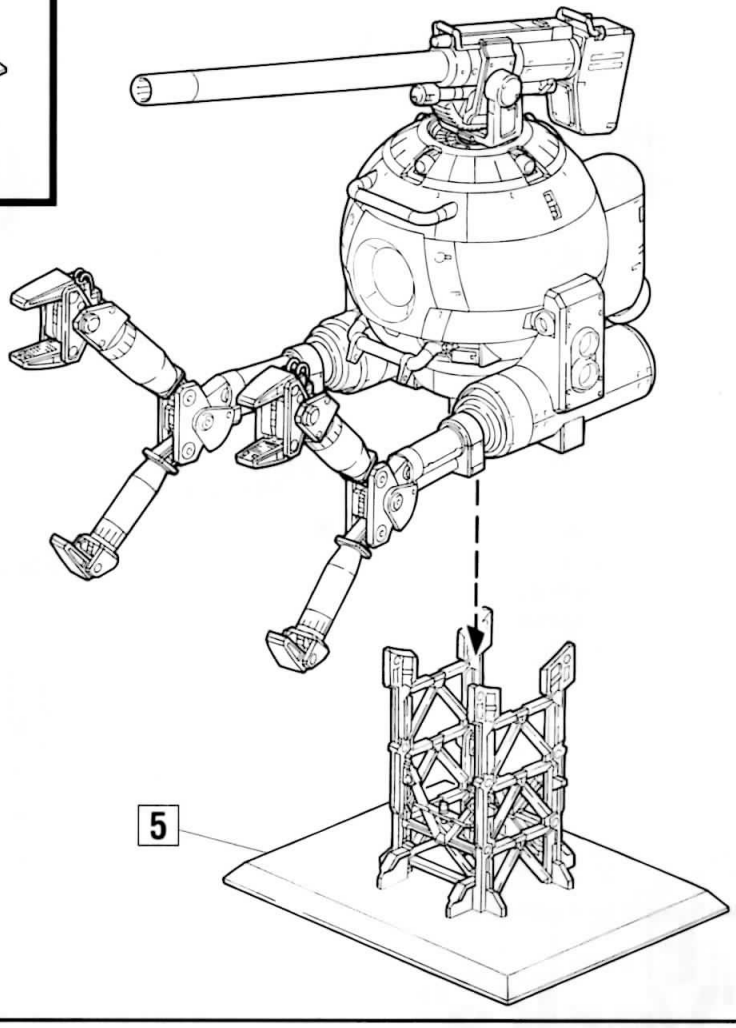


5-1 BASE
〔台座の組立〕





6 DISPLAY



（P5より）基本フォルムはこの『0083』版ボールとほぼ同じものです。

それに続き、OVA『機動戦士ガンダム第08MS小隊』（以下、『08』）では第1話で主人公シロー・アマダが搭乗するボールのデザインを行いました。この時に描いたK型と呼ばれるボールは、『0083』版ボールをベースにウインチや2連装砲などを付けたものです。この『08』版ボールがオフィシャルの映像作品で一年戦争時に登場していたという事実はデザインの源流が同じボール"Ver.Ka"も一年戦争で活躍していた可能性を想起させてくれます。このように様々な解釈で考証できるのもガンダムシリーズの非常におもしろいところですね」

――最後に開発に当たって最も工夫したという内部フレームについて解説してもらった。

「このキットで最も注目して頂きたいのは内部フレームです。実はボールに着手する直前、私たちは水陸両用MSのゴッグとズゴッグの開発に携わっていました。この2体のボディの内部フレームというのがちょうどテニスボールぐらいで、それがボールと同じぐらいの大きさじゃないかという印象だった。それでそこからボール全体の内部フレームを考えてみようとなったんです。

そこで早速検討用に試作原型を作ってみたら、思ったよりも内部フレームにボリュームがあって、これが結構なパーツ数になってしまった。そこで少し躊躇しましたが"ボールを単に作っても丸いだけで模型的な面白味に欠ける。人型MSに比べてボディ以外のパーツ点数が少ない分、内部フレームを頑張ろう"ということになりました。

内部フレームは芯となるコアフレームと、その上に覆い被さるトラスフレームの二重構造になっており、これに外装が加わることで、ボール"Ver.Ka"は、MG初の三重構造を実現しました。また内部フレームはパーツの割り方にも気を使っています。コアフレームは前部にコクピット、後部にバックパックがあることを考慮してパーツを前後に割っていますが、どうしてもその接合部が目立ってしまう。そこで外側に付くトラスフレームを左右に割ることでそこを隠すようにしました。さらにトラスフレーム以外にも接合部を隠すためのパーツを足してデコレートしています。内部フレームの二重構造化にはディテールの奥行き感を出す一方で、分割の都合で成形が甘くなる部分を無くすという効果もあるわけです。これはボールが球体だから360度すべての見栄えをフォローしたいという意識が働いたのだと思います。この辺の工夫は、実際にキットを組み立てながら感じて頂けたら幸いです」

⬆MGボール"Ver.Ka"を機体上部から見た写真。パネルラインを意識したモールドが外装全体に施されていることがわかる。

➡同機の背面から全体を見た写真。アーム上腕部には、MG史上初めて剥き出しで見せることを意識した金属パーツが採用されている。

RB-79 BALL "Ver.Ka"

Gundam Models Designed and Produced by Ka

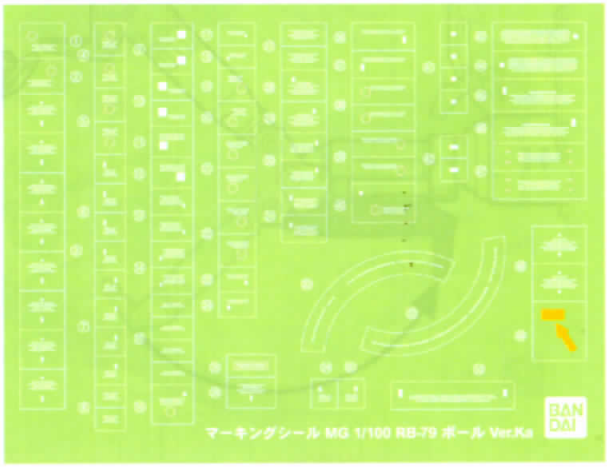
COMPLETE DIAGRAM
for painting and applying decals

■ガンダムデカールのはりかた

1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペンなどの先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

※マーキングシールをさらにきれいに貼りたい場合は、透明な余白をあらかじめカッター等で切り取ってお貼り下さい。
※指示の無い部分を貼る場合は、イラストを参考にお貼り下さい。

■マーキングシール ❶～❺❽



COLOR CHART
used paints and mixture ratio

※よりリアルに仕上げたい方は、右の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」の使用をおすすめします。

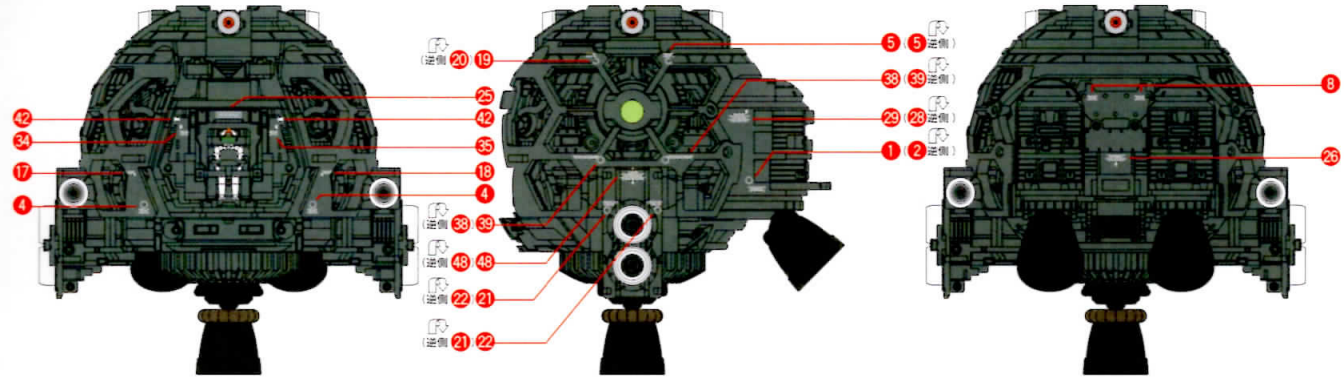
側面バーニアの白・ホワイト（100%）

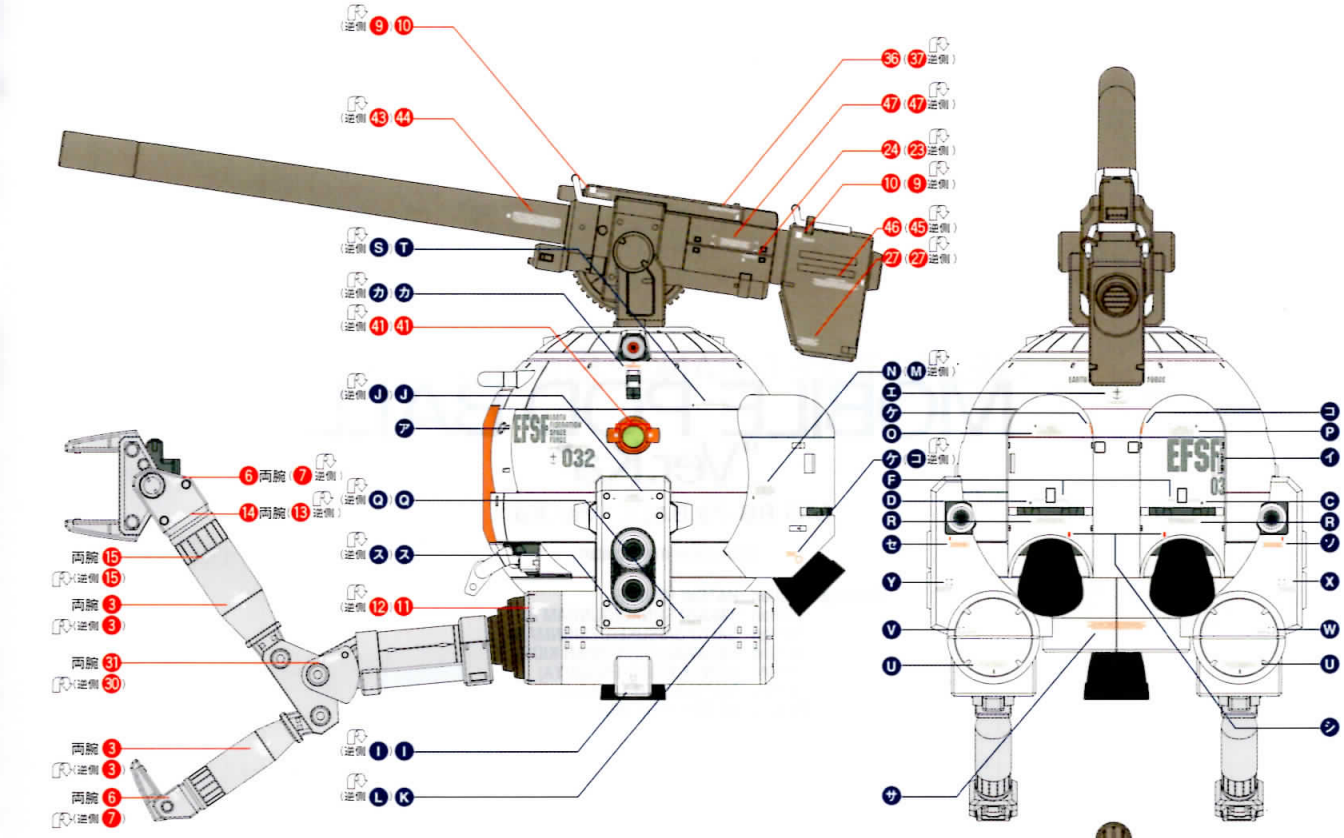
本体の薄いグレー・ホワイト（50%）＋ガルグレー（50%）

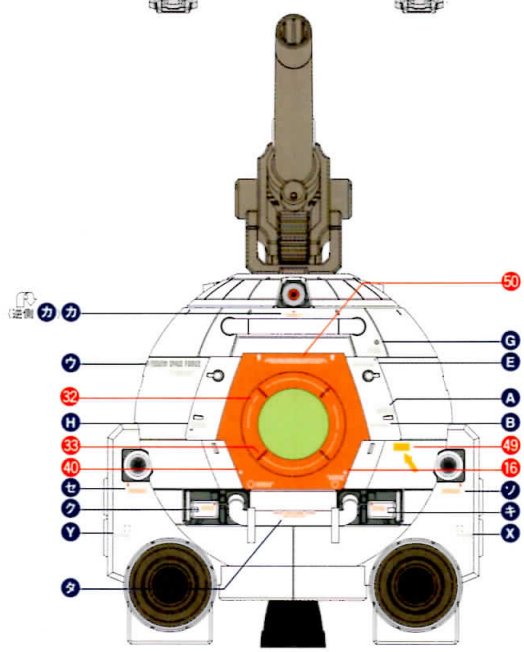
赤・ホワイト1（40%）＋オレンジイエロー（20%）＋モンザレッド（20%）＋シャインレッド（20%）

腕部の濃いグレー・エアクラフトグレー（50%）＋ニュートラルグレー（50%）

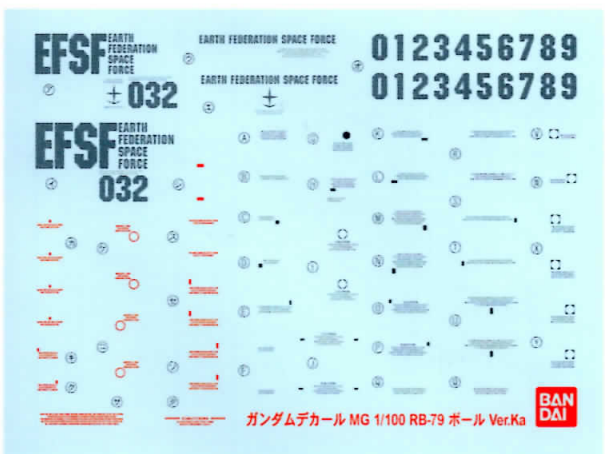
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。







■ガンダムデカール　ア～タ、A～Y



キャノンと内部メカの薄いグレー・エアクラフトグレー(50%)＋ネービーブルー(50%)

クリヤーパーツ・クリヤーグリーン(40%)＋クリヤーブルー(10%)＋クリヤー(50%)

内部メカ・ニュートラルグレー(50%)＋ネービーブルー(50%)

ノズル・シルバー(10%)＋黒鉄色(90%)

●このキットを、よりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売の、ガンダムカラー(「MGボール(Ver.Ka)」用、その他カラーセット)をお使いください。

RB-79 MIDDLE-RANGE SUPPORT TYPE

MOBILE POD BALL "Ver.Ka"

MG RB-79 BALL "Ver.Ka"

Instruction making staff

Produce/direction : KATOKI HAJIME
Edition : TAKAGI SUNAO(GUNDAM A)
Design : SAITO DAISUKE(DESIGNMAN)
Writing : YAZAWA KOICHI(BEAN KIDS)
Photo : HONDA KEIGO(ENTANIYA)
Coloring : MATSUMOTO TAKASHI
Marking : KONNO YUJI(JAM)